

牛伏川を伝えよう防災遺産活用事業

取組に至る背景・事業の目的

重要文化財指定を契機に、牛伏川階段工を含む歴史的砂防施設や牛伏川流域の自然を防災遺産として学び、地域防災を推進できるリーダーを養成するとともに、より多くの市民・県民にその意義を周知する活動によって、防災意識の高揚と生涯学習としての文化に親しむ環境づくりに資することを事業の目的とした。

事業内容

牛伏川の歴史的砂防施設を防災遺産として地域により広く知ってもらうため、現地調査、現地案内活動、現地の環境整備に取り組んだ。また「防災遺産学習講座」を開催し、市民自らが案内活動に取り組める人材を養成した。

<内容>

- 防災遺産学習講座の開催（7月～12月）計5回
 - ・ 学習講座 3回
 - ・ 現地学習講座 2回
- 現地見学に訪れた団体の案内の実施
 - ・ 公民館、団体、大学、小学校などの見学案内
 - ・ 見学案内用独自資料「防災遺産牛伏川」作成、活用
 - ・ 現地案内看板の修正
- 牛伏川流域現地調査の実施（4月～12月）
- 地域団体や建設事務所と協力した景観整備活動
 - ・ 草刈り、伐採



【 防災遺産学習講座の様子 】

事業効果

支援金を活用して防災遺産を詳しく、わかりやすく伝えるパンフレットなどの資料づくりができ、市民の理解をより深めることができた。

防災遺産学習講座に定員を超える参加があり、意欲的な学習、現地での実習を通じて、約20名の案内人が誕生し、実際の見学案内に取り組むことができた。

連携団体と牛伏川流域の砂防施設や地形調査などに取り組み、今まで未解明であった施設の発見を含め、報告書の作成につなげることができた。

行政や地元との協力により、周辺環境整備（草刈り）等が効果的に実施できた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

今後は、市民の財産として防災遺産牛伏川の魅力をさらに広めるため、関係団体、県市などの行政機関と連携した活動に取り組む。

また、案内人の増加（継続者、新規参加）を図り、案内をわかりやすく、充実させるため「インストラクター」制度の充実を図る。

今までの活動の成果を踏まえ、現地への誘導案内の改善、案内用パンフレットの改定、県内、県外にPRできる資料づくり、宣伝体制の充実を目指す。

【選定のポイント】

現地案内活動、パンフレットの作成等により、牛伏川の歴史的砂防施設を地域により広く周知するとともに、インストラクター制度の確立を目指すなど、事業の発展性に期待できる。また、行政や地元との連携・協力により、周辺環境整備が効果的に実施でき、防災遺産としての活用が進捗したモデル性の高い事業であり評価できる。

団体名	牛伏鉢伏友の会（松本市）	事業タイプ	（ソフト事業）
連絡先	090-8328-8658（代表 加藤）	事業費	893,138円
メールアドレス	yama3417@mx2.avis.ne.jp	支援金額	467,000円